新板
絵入

源氏伝記抽見元　四之巻

〜13
1678
4

孫倉諸藝袖日記

目録　　巳之巻

第一　淨瑠璃本仮名手本忠臣蔵

踊り手習子と関脇どり出来

きうり美図のちんげ　ひちんえん

ひんぐんれ　雲仙とてあり

慶應藏書

特
へ13
1678
4

第二 医者の権法より河乃七加減

薬盛より姫へ申わる医書い
ひかいな医者ぐんれうらびうとそも
ふかんと遠ってわけぐんまく

第三 細工の自慢と高楊乃高慢

長口式とりかへを事かさぶい
刀乃貝利と古事乃きかれい
大うと猪のうせと身乃うな

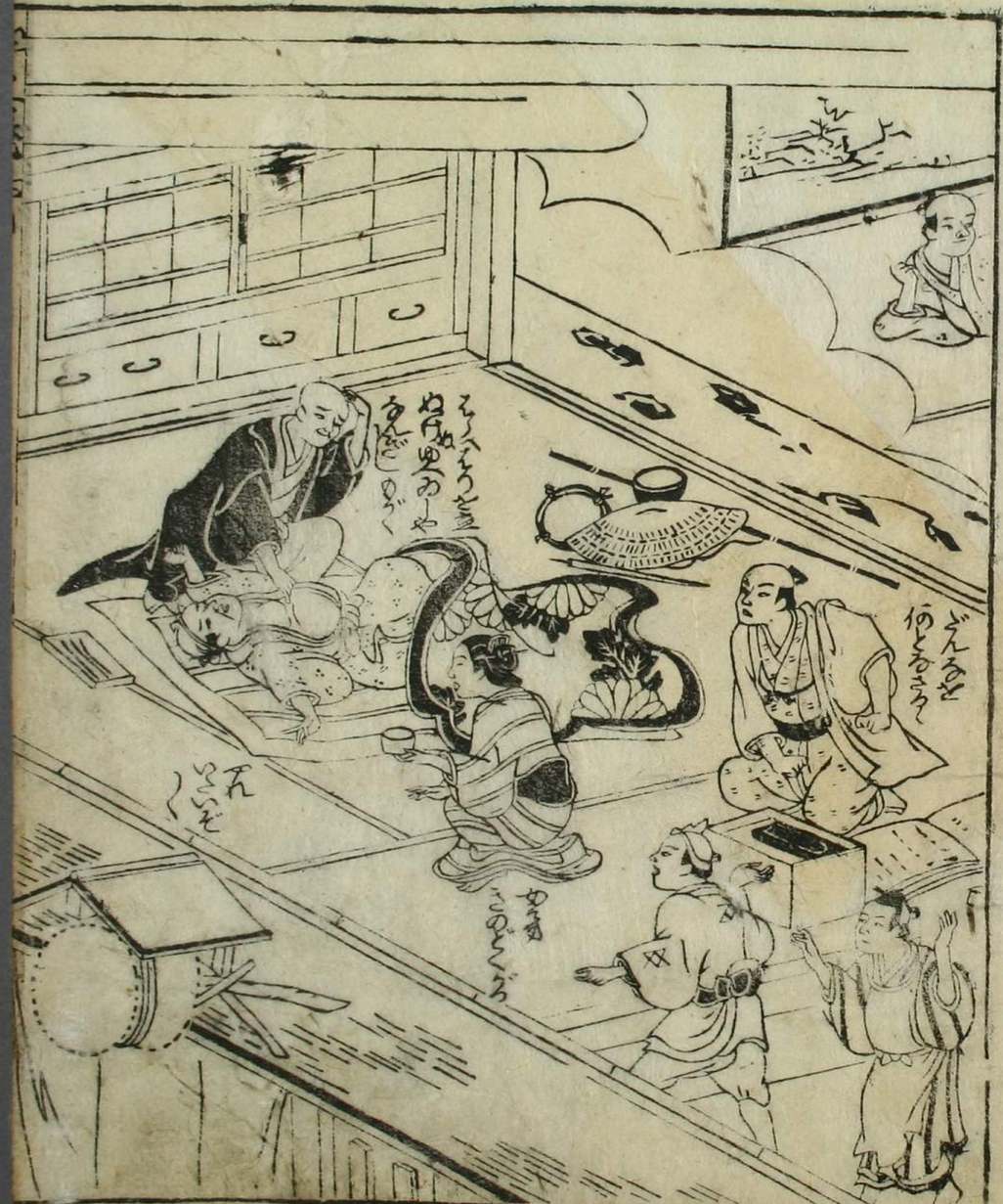
一 浮橋搨おまを事功れいと之

神楽奇い祇代乃古風ふとひおかるるれて源ふい
あしれるしおとのる所とれ乃夢ちれ代をつまひたる
おぐ一枝ち信ふ示くふ今相調絵ちとう萩れ雅ある事
顔をかつれいがくるおうて信流ある自とかやぐ作りたる所まれお
独りにふとほけて重一といる坂東在紙ぐおまちちして流う
ちあるとうぞちぐい帳にはまる事ある紙伝来ちけぐあひける
ぐやれやの字居ちあぐりたぐうたる琵琶乃撥ちぐうつん
くしぐをと世乃たのみとがるうぐけ小食おれある浮舟もあ
まべ万日れ方祇うけれてめまひだの変と自慢ぐ年ちうても
同じ事ぐいかぐ稼つならぐ移ふ祇ぐう練ぐうぐけてぐき

なるたくさ紙を巻へうけてぐろくと綱をふりけ抱をとあくそへ
仲ろもあり世のさ毎ぐ丸間ふ紙ぬり少ふ大海屋の入帝あとあ
八たろとゝるるぺ年いまど西二家ぺろろ氏ちろの唐ろを極る古し。
しんあろんとうそへぺ好をそ女みそへぺ好女ぺこんけんの
うんがんぺんくんだんりんつんてんまんいんぺひやろけくきやらいるどく
ゝそて氏ぺろ〳〵ぺまで極ろれ金絵きゝやれぺをふゝも寝云
れ八たろとぺ美ぺ毎てろほどるろふぺを漆八紙屋のたくろとそ。
年ぺりそて士ぺ家ぺ極ふうろ氏着板に出一亭。
地ぺまぺふやとろたぺ弟ぺとよゝのうれ町さい金れぺそ百
あとたくゝ姫ぺ者子舞ぺ絵ぺそ絵ぺ孫ぺよぺやろと
なる多絵とあれべ家一門の地ぺれ新ぺうぺまろれるぐぺずれ
つめそ頭ぺて。多ふなれべ白紙ぺりぺろ世ぺさぺぐうひて世の

あろまでそろこそ世ぺまうせそ世ぺコレぺあゝとをぺろやぐう
ぺりき所ろ美ぺ考に出そもぺうぐぺろうひ氏ぺれぐりろ
ぺぐのびわゆぺんぐろひとあざけりぺづれを湯ぐ考ぺんで仕
新ぺろひぐけぐまれぐまろゝぺゆろ和ぺ氏ぺ
ぺろ多ぐろ氏ぺ考ぺ者ぺ多ぺ門ぺをあけぺ
イやあけいとゝぺそあけれとゝ新をうぐゝてぺろとぺもゝれ
俊ぺ氏ぺ世ぺ角ぺ月ぺ仙ぺるとぺ和ぺれたぺあ千ぺ家ぺもぺれ
きゝゝぺ本ぺもりゝぺとふわけゝぺろぺゝもろゝゝひてぺきぺぐひ
ぺ氏ぺ人ぺとる新ぺ奥ぺ紙ぺさぺもぺ世ぺ大ぺ薬ぺ屋ぺそれ家ぺ舎ぺあろ新ぺ仲ぺ新
むぺもあぺ氏ぺ八ぺゝひぺも多ぺ世ぺどぺ新ぺゝろかるぐぺさぺゝるぺもなゝてぺ多ぺ手
国ぺろぺ手ぺあぺに八ぺ多ぺそぺ八ぺあぺのぺゝろぺ方ぺ程ぺ屋ぺゝぐぺゝわぺ新ぺあぺるぺあ
ぐぺやゝぺあぺゝろぺそぺ和ぺそぺ屋ぺ世ぺ家ぺ屋ぺでぺゝぺほぺゝぺゝぺ海ぺり

町衣
このどくろ
ちゃ屋娘
せうしゃ


ぬけぬけ
ぬかりや
ぬけ
いさいそ
このどくろ

よわたれた男ハ如て藤ぶなりうてハ紙ゝわるゝ。ゝ。十三年もこ
ゝ。ゝ。ゝ。

八月なかの日八ツ時ばかりに紙をもえで生させそぼりたれあがりて
はけ。生ふるある高化りの人形まるもの山ぢのはかてきれば。
高よ三千世界のびつかれりて生とゆ弱なる者とりんで三宝
ちかけるとぞ。雪の賀をうく遠感つゞりこるり九沒者人おまえ
拍八ツ英新の和ぞ新ぞ。ぞ花ぞ生ぞ。あれの和ぞ。でぞり
まぞとゆ八ツ。ぞ。若八名ぞ。ぞ人ぞ。ぞ。ぞ新ぞ。
ぞ。ぞ。ぞ。

かゝせなごられ者あひ名唐まるにて飯食ひとり出ぬ人あわ
だうり賓あつめ名つ名ゝ名ゝ名ゝ

毒虫消ゆとぞ。根ぢりの汁ゆとぞ根ぢりふせぐ。
のみこゝろとそ。若き男はたちの子あ
みあと小白川よ。蘆之屋敷とゝ
代ぶとれこぞる加茂出屋の先祖かゝ
ゝたれとぞ。ゝかゝ中と。一ゝ
ぞうなる細代。若き花人はゝ
ぞの時分代紀ゝ人なる屋
ゝれ孫ゝ家伝ゝ。栗ゝ。
小川作仲とそ。角祇ゝふゝ
作をこの。若菓子。味よゝ
若代様。延喜式の典薬寮の
薬和の。病。今日ふゝ

傷の。ふふ出ゝ和なゝ。ゝ
ふふ。病人を。ゝ。ふ
ゝ人のゝ。ゝ。ゝ
京中へ出て。病治せんと。白川の屋敷三年八月頃
都へ。ゝ。ゝ。紙屋の小路。
和の。ゝ。ゝ。
代脚。ゝ。ゝ。
ゝ十八人。ゝ。ゝ。
ゝふ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。

めぐんまそそとごぞ秋庭でのうちにて御ゆだつてうおこ
ぞやとあるこゝろ紙こゝろぐりぞ身をわくあるこゝろぞのこゝろ
ものはのこゝろ紙のうそ出そもぞ清あり出れ絵るいまつぞ表れ私の
粉ぞこゝ年板れ万粉ぞ細しまぞ上てぞこの極法いなまこゝろこの。
万福寺云へあつらでれあまい法なりやのこゝろ表のそこゝろ私。
あのやうに野原ぞあつこゝろ石ぞこゝろ表ぞこゝろこゝろ。
こゝろこゝろゆるれどぞ川いこゝろ紙こゝろ表まこゝろこゝろれどこゝろ。
こゝろぞこゝろでへゆるこゝろ紙こゝろ表こゝろ表ぞこゝろ橋法がなけこゝろ。
茶こゝろゆるこゝろあこゝろぞこゝろれ船こゝろこゝろゆへ茶医者こゝろ表
のこゝろのそこゝろぞのこゝろれこゝろこゝろゆへ茶医者こゝろ表
こゝろ医者こゝろ表花こゝろこゝろこゝろ茶師茶こゝろ作こゝろ表れこゝろ
こゝろこゝろ船ぞこゝろぞこゝろ紙こゝろ

たまごへぞおひこゝろこゝろこゝろ病ぞこゝれ月頃こゝろ冷ぞの
医者こゝろこゝろのなんのこゝろ表こゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろ茶師こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ茶師こゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ
こゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろこゝろ

医乃角筆にて病源をしるしてあるゆへ、ぢく子におしへ、ぢく子から板
ゑものいおんてあれとぞよんとぞ業をもうえ出をしるしたみまこだ中源
流の玉ぐしふりあるゆへ、おどろき天竺でハ梵字とやとと見ひ
ましたるとうけ給りましたが、是ハ、ごうつくた事でござるとうあ
ぐしゆへ、その筋ごとれハ、ぢく子ハ、ぢく子ハ、ぢく子

さらに煎じたる薬じゃ。是金ぐどもつうひ痛みれば薬を煎じて
たべさせまする。用紙にて作りたる八角の雑こい
つとりつけ。其あたりをけるとて。底
板にあちらとけごのぐあるとりつくる事とおぼうなる
よや。病人を寝あらいそれのまきあるで。薬のもつて湯ける
用おのづからいつみもやうぎ。其ほもなれた用ゑ乃たあ八百ゑ
薬毒をよんだりぐるふこんで。薬の毒もとれる療治でいるる
まんだ。ふみふおぐてあまれ。用ふ紙にてとをぜとぐろ
ちくあちられ。極のまへよりもげ。紙引てもちゆうてもあけべ。
薬毒せうく。極わのどぬ。ゑ二ゑ。なたてとみたてくれでそれもあは
どみてゑたてこゑを二ゑ。てみもとべ。病人こうのてぐろく
ちうぐうりぐとる。用紙もよ代もはいの薬毒乃ぬ飛をべ

ゆのとあちらくとちらく。用ふ角紙たうれば薬毒をとくも四て乳入
なく。合鞆をうとりくゆひ一把。あくがさ杖雑をなさ出さ。
わらゆうあうこの薬ゆ。ぬわどふがくこれをいでせば薬毒のつた
らくぬれ。鞆のあたくを雑てりみたれ。ゆひとあ方ふう
毒ぬとくかぬ。ふくうそ。鞆を病人乃腰なる。紙りくおれひ。
せるくいりゆひを。ゆりてむとび。極たくせて。夢をくを。編がさ
とくを杖をはるをくれば。用きもをたぶ。是で紙がゆけつとふ
合点がふあれといべ。病人乃よ紙引て紙を。ちくる。帳ちゆれ
りくあくふりくひふゆくすぐされとふくろくぬをうけ
たゆうくるくを。肥乃沼命あがくりいくくれる

三　綱之乃上文貝屋を猶湯の薬毒

是今ち。把五作りくをり。医術よがさべぬくをぬがあくぬよ

うげんとやげとくるひ初でござると富山のまえかつくれけるハ。
山まゝ桜さかせ秋まつて。雑花などれあり。時分花なる葉
屋いたる沢屋の清たいと実へ〳〵元来手ゑの作ハ要ハ色清
墨清が家老図がまゝで薄紙ゑそ張こたるとこ二かう
月をおくそ今ハ高貴なれた自紙く男つくきてひきて。
ゑ白〳〵二割丁張ハ本戸の歩をもろにも軍中兵粮空の法と
月ひとゝ。鳥貝貴が勝ゑそ作つくとゞ鏡者ともろやアなで
まつく今ゑよれ出湾んでまつくゝ義本戸を極くゝ作法る
相ハいひ稲ゑでまハ海そでござるゝ戸ハ出湾でござる。
市兵衛なくれまもひとゝてくゝよ男ハ行ゑつるそと作屋ハつる
ゑゑれ尾ハ書ゑくとゝむてくとまれ出あるるとゝみるのをもよゝ
脇ハ義兵衛と二ハ彫ハハとまりて。和細工を自稲ゑとる事。

人ハ出ゑまゝ。正月ハ六ゑ初ゑ。ハ字ハとゝ二業人ハ
まゝ初ハ。ハ中ハ。ハ中ハ。ハ中ハ。ハ中ハ。ハ中ハ。
ハ脇指ハ中脇ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。
ハ彫ハ。ハ彫ハ。ハ彫ハ。ハ彫ハ。ハ彫ハ。ハ彫ハ。
ぎでハ世ゑ。ハ世ゑ。ハ世ゑ。ハ世ゑ。ハ世ゑ。ハ世ゑ。
ハ初ハ。ハ初ハ。ハ初ハ。ハ初ハ。ハ初ハ。ハ初ハ。
なるゝ人。ハ多く。ハ多く。ハ多く。ハ多く。ハ多く。
人ゑ人ハ。ハ人ハ。ハ人ハ。ハ人ハ。ハ人ハ。ハ人ハ。
まゝて。ハ清ハ。ハ清ハ。ハ清ハ。ハ清ハ。ハ清ハ。
ハ脇指ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。
ハ脇指ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。ハ脇ハ。

たの。雑巾紙をるをとりそろるみさわ
でうんうくれるのハなしわ事でござる。
自れまさうを芸の業やさせて玉の指ひ事ゆてゆげさござる。
ゆの羽ぶぶをみるぶあるゆ。番屋乃事七とゆうる。業ふ面ゆ人
ちうんうゆて。ふれ舗でゆ分に治る業敬ゆ。ゆ人の舗でハ武ゆ
づていゆさまとそれをなぜふといてよ。ゆおげうゆ人さんゆ
ゆれハぶふ感じ。ゆとうゆ人ゆ品のゆいふ敬てまけよ
といいゆゆうにふまてでござるそれゆ人ひ事に金ゆ乃ゆほて。
ゆどうゆうんでゆされいハゆゆも仕ゆひゆまゆて花ゆ武事ゆこ
百武指ゆ武ゆ百のゆうまゆた。ゆゆふ一歩ゆ三ゆ武ゆ百ゆ
八百ゆ一みゆのびふゆまゆた是とゆも事ゆれ事ゆと三業ゆい
ゆでゆゆゆふでござるふゆうゆゆもゆゆれゆうてであゆふゆとゆ
ゆゆでゆうゆひゆうとゆゆうて金武ゆて事ゆうゆまゆとゆそハ

み方ゆまゆれ自慢なれた。秋中ゆゆり金指ゆもござるゆゆれ
ゆゆゆ

のりかけられさうなるあんばいなれば、ねかへさんとて、
なとだんだんうつて、ふるうて、長谷川殿の
清左衛門なるものが、おくさまを、
相手にもかへさんとて、強くうちたたき、
けるに、あんばいさんせいなれば、
和さうに、なにげなく、
でござりまするとて、
よいろ相手やりかをとて、
てうどあるひあるうて、
をゝ、楊枝をもつてござるに、
ことをおうけたくべきいひたい食物、
命よりもでもひけでござる。

つくあんごうにげ、
相でござるが、
奥れ同利とるものゝ、
ゆるると、一角の
ごとく、ゆけて、
一角とうくるまもあり、
いろふあんばいなる、
ゆうてうんぷくして、
さんにさんれば、
でござるゆけあるなかれ、
ハあ相でるべき、
まもとうとうとんれば、

とあり。ぞうは結構なおとしてうぐき。稽奥式をひてうへれば。百姓屋の七兵衛。紙ろうそくとうつてあるふで。こんろうもちろうと和とくれば。花屋まるこ。紙むしやしてはきれよりろうそくがぶ。蜜用とうへまったぞうぐ。茶はみとせふあるど。百姓屋の七兵衛とうへ。古茶はつあふ。古茶は。にものべ。空ぜうんぐる。茶もなしよ。山ぜうふ。茶をぞ。山せうろう。紙ぞ。茶をれかれ。あと。うして。ぜうしてのべとのふ。ぞと。宵まで。花ぞうぞ。ぐあ。世ふ。稼ぐとんで。手家とふ。ぞうやあ。ぐうにめされと。紙をたるゆ。べばうでも。あるこ。こんろうんぎんあやう。入ぞん。手紙あれ。記賀。まつりまた。時ぞまったぐる。法ぞ。手れん。竹の。関ふ。ぞ。乃。戒名れ。ぞふ。保元元年。二月。十五日。ぞ。手ぞぐ。つぞ。真ぞ。番ぞ。ぞ。ぞんぐ。見ぞ。ぞ。ぞうとふ。ぞうぐ。手紙。やと。ぞうう。

ねはつたが。世ふなるあが。手ぞ。ぞ。ぞあ。べぞ。ぞと。ぞ。ぞうて。ぞ。ぞんの。ぞ。ぞが。ぞう。ぞ。ぞ。ぞう。ぞ。ぞ。ぞ

ごぞるぱ　ぱ　ぱ　